

「南東欧地域病院運営」コースを修了して



研修修了式での記念写真。前列右端の女性がイェレナさん

私たちはこの度、聖マリア病院における JICA 研修に参加する機会を得られたことをたいへん名誉に感じております。

研修を修了するにあたり、この紙面をお借りして、まず日本政府に感謝を申しあげます。また忍耐と友情を持って、常に私たちに暖かい言葉をかけてくださった聖マリア病院スタッフの皆様にも感謝を申しあげます。特に国際事業部のお2人には、この研修プロジェクトの教育的な目的に沿って、プロフェッショナルな姿勢で献身的に業務を実行してくださったこと、また時にはジョークで私たちの緊張を和らげてくださったことに対してお礼を申しあげます。

研修を通して、聖マリア病院の継続的な業務改善のための活動について知ることができ、皆様の聡明さ、業務への熱意や献身的な姿勢に対して、私たちは心より賞賛いたします。また、このような姿勢は、職業に関係なく、すべての日本人に共通して見られるように思います。例えば運転手と検査技師を例としてあげてみましょう。まったく違う職種ではありますが、私が経験した限りにおいて、仕事に向かう活力、倫理観、そしてプロ意識は両者とも同じレベルで見ることができました。このような規律は、私たちの国ではほとんど見ることができません。私たちの目にはまるで奇跡のように映りました。



資料部での研修の様相

この研修で講師を務めていただいた先生方には心から感謝を申しあげます。講

イェレナ・ジュキッチ（セルビア）

師の方々はそれぞれのテーマについて、私たちが理解しやすいよう気を配りながら教えてくださいました。同時に、私たちの国や職業的背景、文化、そして直面している問題についても関心を示してくださいました。

残念ながら、この研修を終えるにあたり、私たちの感謝や喜びの大きさを十分に表現する言葉が見つかりません。この美しくエキゾチックな国の文化や歴史に触れる機会を与えられ、



日本文化への興味が旺盛だった研修員たち

美味しい食事を取ることができ、古い歴史が偲ばれる寺院や神社の静寂の中を歩く経験ができたことは特に嬉しく思っております。私たちは日本の「簡素な美」や梅の香り、味噌汁の味、そしてどこへ行っても私たちを出迎えてくれる人々の微笑みによって、いつも楽しい気持ちでいることができました。また私たちは、自然や環境とうまく調和がとれた日本の生活様式を楽しむこともできました。

長崎の訪問は心が痛むと同時にたいへん意義深い経験となりました。私たちは長崎と広島との両都市が原爆の被災地であることは以前から知っていました。しかし今後は、私たちも核兵器廃絶を声高く主張していきたいと思えます。そして、永久に消えることはない日本の人々の痛みを共有できればと感じております。

講師の方々は皆「日本における事例は必ずしも理想的なものではない」と言っておられました。研修を修了した今、「日本における事例はどれも理想的なものである」というのが私たちの率直な感想です。また私たちにとって、聖マリア病院とは、継続的な業務改善を実行することによって目指すべき遥かな目標であります。そのためには、トヨタの「JIT(Just in Time)の原則」や「PDCA(plan-do-check-act)サイクル」の導入が必要だと感じています。この研修を通して得られた知識は本当に素晴らしいものでした。

最後にバルカン諸国からの研修員一同を代表して、あらためてお礼を申しあげます。日本滞在中に私たちを支援していただいた皆様、本当にありがとうございました。

※本年度の JICA 研修「南東欧地域病院運営」コースは 1 月 26 日～2 月 20 日の期間、当院において実施しました。筆者のイェレナさんは今回来日した 3 名の研修員のうちのお一人でした。

ISAPH ラオスプロジェクト報告（水質管理専門家派遣）

ISAPH 事務局

昨年 12 月 24 日に JICA の草の根技術協力事業である「生き生き健康村づくりプロジェクト」の契約が結ばれ、今年 1 月より本格的な活動が始まりました。当プロジェクトでは衛生面の向上のため井戸整備を活動の一つとして行い、その支援として、水質調査の専門家である財団法人九州産業衛生協会の甲斐田照明氏（技術士：環境部門）に協力をお願いしました。期間は 1 月 21 日（水）から 2 月 6 日（金）の 16 日間でラオスのカムアン県セパンファイ郡において以下の調査活動をしていただきました。

1. 井戸水の大腸菌測定及び新検査方法の指導
2. 新規井戸水ボーリング予定地区視察
3. ラオスカムアン県保健局水道課における飲料水適性検査方法の確認
4. 緩速ろ過装置の試作

1の井戸水の大腸菌検査については日本の新基準に基づき、これまで行ってきた試験紙による大腸菌群の測定から、大腸菌を測定する EC ブルーを使っ



県保健局長への表敬訪問

ての測定方法に変更し、井戸水の大腸菌検査を行い、その報告を地域住民に行いました。また今回の新測定法については、現地で実施できるよ

う、九州産業衛生協会環境科学センターより検査キットをご寄付いただき、ISAPH 職員に指導いただきました。

次に2の新規井戸水ボーリング予定地区を視察しました。井戸の周りに家畜が近寄るとその糞尿によって細菌汚染がおき、さらに雨期になると、泥水が井戸にしみ込みやすくなり井戸水大腸菌に汚染される可能性が高くなります。それらの状況を確認するためです。

3の飲料水適性検査方法の確認では、県保健局水道課を訪問し、分析方法を確認しました。その結果、カムアン県で実施可能な水質検査は 12 項目あり、その中で井戸を掘削する際に実施すべき水質検査は、基本的に健康に関連する項目でした。ヒ素、マンガン、フッ素、大腸菌、硝酸、亜硝酸がこれに当たりますが、硝酸、亜硝酸については、可能性が低いと判断しています。

4の緩速ろ過装置については、事務所前にバケツとホースと砂を用いて 1 日 300 リットルの緩速（生物）ろ過装置を製作しました。泥水が 2 回の前ろ過と本ろ過で、最終的には透視度 50 cm 以上の精製水になりました。

最後に、甲斐田氏および派遣にご協力してくださった九州産業衛生協会に心よりお礼申し上げます。



井戸調査で訪れた村の村人たち

聖マリア病院での見学を終えて

私はドイツのケルン大学医学部 4 年に在学する小児科医志望の学生です。将来は日本の病院で働きたいという希望があり、今回、実際に日本の病院を見るために、2 月 23 日から 27 日まで、聖マリア病院での病院見学をお願いしました。

聖マリア病院では、まず最初に新生児センターで見学させていただきました。新生児科の先生方はフレンドリーで、いろんな症例について十分な説明をしてくださりました。医師や看護師の実際の仕事を観察し、たくさん質問をすることができたことを非常に嬉しく思いました。また帝王切開の手術を 2 例も見学し、生まれたばかりの赤ちゃんの体を拭く経験もさせていただきました。その後も脳神経外科、小児科、ER などいろいろな現場を訪れ、見学させていただきました。中でも生後 2 ヶ月の赤ちゃんの脳外科手術を見学できたことは、非常に貴重な経験でした。

臨床の見学だけでなく、聖マリア病院の歴史、運営方針などについても学ぶことができました。その中で、聖マリア病院が国際協力活動を熱心に行っている病院だと知って驚きました。私が小児科医を志望する理由は、まず子供が好きだということ、そして子供たちの強い生命力からパワーをもらえることです。現在の世界

ビルギ・ペシエ



ビルギさん

には、十分な医療サービスを受けることができない子供たちが大勢存在します。そのような子供たちを救済するため、私もいつの日か国際協力に携わってみたいという気持ちになりました。

最後に、病院滞在中にお話をしてくださった方々、ご指導して下さった先生方にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

今月の動き

【派遣】

- ・ 3 月 7 日（土）～ 14 日（土）丸山正人（経営企画室）、井福武志（臨床工学室）；南東欧地域別研修コースのフォローアップのため、セルビア国に派遣。
- ・ 3 月 15 日（日）～ 27 日（金）山崎裕章（国際事業部）；JICA ミャンマー国主要感染症対策プロジェクトへ短期専門家として派遣。

【受入】

- ・ 3 月 2 日（月）～ 3 日（火）日本 - マレーシア経済連携研修のため、マレーシア人研修員 5 名が臨床工学室にて研修。